

CODE 海外災害援助市民センター
2016 年度 事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	① ぶどう畑再生支援事業 ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 555 世帯(2017 年 3 月時点)。
実施内容	<p>① ぶどう畑再生支援事業</p> <p>・これまでの経緯</p> <p>2003 年から上記の地域でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への小規模融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 555 世帯が融資を受けた(2017 年 3 月末時点)。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。</p> <p>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、2010 年頃から主要な市場であったパキスタンへの輸出が閉ざされ、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。</p> <p>2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」(熊本市)の関係者となつたり、ミールバチャコット産の有機干しぶどう(レーズン)を日本で商品化することとなった。</p> <p>・現状</p> <p>2003 年、288 世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラー(ぶどう協同組合)はこの 13 年間で 555 世帯(2017 年 3 月末時点)まで拡大している。この 10 年でミールバチャコット地域に帰還した住民も多く、人口は増えている。本来この地域には 5000 世帯の人口があるが、約 2000 世帯はカブール市の郊外に住み、またパキスタンやイランに出稼ぎに行っている人も少なくない。</p> <p>現在、年間 50t のレーズンが組合に加盟している農家によってつくられているが、1/3～1/4(10t～15t)が有機栽培で作っている。</p> <p>近年は、天日干しからレーズンハウス(貯蔵庫)で作るようになってきているが、ハウスは高額で多くの人は購入できない。</p> <p>通常、生のぶどうを収穫後すぐに売り、余ったものをレーズンにするが、生は 14kg=120</p>

アフガニ(2\$)と非常に価格が安く、レーズンは 1kg=1\$ と高くなる。

ほとんどの農家は、100 アフガニ(1.5\$)から 500 アフガニ(7.5\$)ほどの少額を組合に返済しているが、2016 年度、組合は 50000 アフガニ(750\$)を回収し、新たな 10 世帯に各 5000 アフガニ(75\$)を貸し出している。

依然として販路であったパキスタンとの国境は閉鎖され、物資の 95%を外国に依存するアフガニстанは、国内で物資不足のため価格高騰を引き起こし、市場に大きな影響を及ぼしている。

CODE が輸入しているレーズンは、ミールバチャコットの協同組合の総生産量の 0.2~0.3%ほどではあるが、食と国際協力やイベントなどでこのレーズンを通じてアフガニстанの現状を知ってもらう機会になっている。

(1)ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売

2013 年 12 月に 20kg のレーズンの輸入を開始し、2014 年 3 月から 1 袋 100g の真空パックの販売を開始し、2016 年度末で、総計 400 kgを輸入・販売してきた。2016 年度は 80kgを輸入し、販売した。

以下がこれまでの輸入・販売実績：

2013 年度	20 kg (11月輸入スタート)
2014 年度	220 kg (50 kg × 2 回、40 kg × 1 回、20 kg × 4 回)
2015 年度	80 kg (20 kg × 4 回)
2016 年度	80 kg (20 kg × 4 回)
総計：	400 kg

アフガニстанのレーズンは、味に定評をいただき、規模はまだ小さいが、確実に販売実績を伸ばしてきている。2015 年 8 月より個別注文以外の委託販売も始まった。ケペスという東京でフェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社の岡本玲子さんが、毎月 30p~50p(3 kg~5 kg)の定期購入をしてくれている。

その他、「れーずんの会」、レーズンのイベント販売などを通じてアフガニстанの状況を知ってもらう機会を複数設けてきた。2016 年 3 月までの輸入、販売の総計 340kg である。

○イベントでのレーズン販売

2016/4/14	第 22 回食と国際協力「アフガニстан」で講義(村井理事)
5 /3.4	高槻ジャズフェスティバル(細川)
7/23	コープこうべ平和の集い(上野)
10/2	いやしフェア(須磨寺)(吉椿、今中)
10/15.16	第 8 回食の文化祭(高槻)(細川)
11/5	荒田エコフェスタ(細川)
12/23	ワンワールドフェスタ for YOUTH(吉椿、上野、今中)
2017/2/11	ひょうご・こうべワールドミーツ for YOUTH(吉椿、上野、今中)

	<p>2/26 コープこうべ(兵庫)サークルくらぶ発表会(上野)</p> <p>3/18 ユニセフの集い(吉椿、上野)</p> <p>(2) 食と国際協力などでのアフガニスタンの現状を知る機会の提供</p> <p>これまでに「れーずんの会」や「食と国際協力」で年2回、レーズンを使った食を味わいながら、アフガニスタンの状況を発信する機会を作ってきた。</p> <p>○これまでの食と国際協力(れーずんの会)の開催状況</p> <p>(*講師はいずれも村井理事)</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回食と国際協力(れーずんの会 1)</td> <td>2014/3/28</td> <td>参加者 18 名</td> </tr> <tr> <td>第 2 回食と国際協力(れーずんの会 2)</td> <td>2014/4/25</td> <td>参加者 19 名</td> </tr> <tr> <td>第 8 回食と国際協力(れーずんの会 3)</td> <td>2014/10/16</td> <td>参加者 11 名</td> </tr> <tr> <td>第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4)</td> <td>2015/ 4/16</td> <td>参加者 9 名</td> </tr> <tr> <td>第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5)</td> <td>2015/11/19</td> <td>参加者 8 名</td> </tr> <tr> <td>第 22 回食と国際協力</td> <td>2016/4/14</td> <td>参加者 12 名</td> </tr> <tr> <td>第 32 回食と国際協力</td> <td>2017/4/20</td> <td>参加者 8 名</td> </tr> </table> <p>② アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト(終了)</p> <p>2015年2月24日にアフガニスタン北東部で雪崩災害が発生し、ラフマンさんをカウンターパートに救援事業を立ち上げた。現在も被災地の情報が十分に入っていない状況はあるが、家屋の倒壊や新たな雪崩の危険性から被災地では約500家族が今後、他の土地に移住しなければいけない状況にある。</p> <p>ラフマンさんはこれまでに被災者が住居を確保するまでの間の支援として、食糧支援や防災に関するワークショップを実施してきた。今後、クワの実の栽培を使った農家の再建プロジェクトを計画している。これまでにCODEに寄せられた19万3800円の寄付金を使って2016年9月にクワの実約150本を購入し、提供した事で本事業は終了した。</p>	第 1 回食と国際協力(れーずんの会 1)	2014/3/28	参加者 18 名	第 2 回食と国際協力(れーずんの会 2)	2014/4/25	参加者 19 名	第 8 回食と国際協力(れーずんの会 3)	2014/10/16	参加者 11 名	第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4)	2015/ 4/16	参加者 9 名	第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5)	2015/11/19	参加者 8 名	第 22 回食と国際協力	2016/4/14	参加者 12 名	第 32 回食と国際協力	2017/4/20	参加者 8 名
第 1 回食と国際協力(れーずんの会 1)	2014/3/28	参加者 18 名																				
第 2 回食と国際協力(れーずんの会 2)	2014/4/25	参加者 19 名																				
第 8 回食と国際協力(れーずんの会 3)	2014/10/16	参加者 11 名																				
第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4)	2015/ 4/16	参加者 9 名																				
第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5)	2015/11/19	参加者 8 名																				
第 22 回食と国際協力	2016/4/14	参加者 12 名																				
第 32 回食と国際協力	2017/4/20	参加者 8 名																				

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民
実施内容	<p>*これまでの経緯</p> <p>2008年の四川大地震直後からCODEはスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添って来た。</p> <p>その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、</p>

2011年6月に着工、9月に完成した。

センターは村の中心部4組の森に囲まれた場所で、駐車スペースなど総面積約1000平米、築面積約380平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築され、中国の伝統木造様式である三合院(3棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン)で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持っている。

2011年3月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金2万8000元(約36万円)が届いた。

2011年9月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事(当時)らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。

その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽(中国式アグリツーリズム)」として活用している。

2012年3月には、金沢大学との協働で光明村の被災者3名を日本に招き、能登半島地震(2007)や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。

2013年2月にはCODE10周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震におけるCODEとの活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。

2013年9月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史(中国社会科学院)を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約20名ほどの観光客が来ており、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきいていたが、村長が職を辞した事や道路整備、出稼ぎ住民の多さなどの理由から、未だ安定した状態にはない。

2014年より民間レベルによる今後の日中災害救援における連携を深めるために日中のNGOやボランティアが共に学び合う場を企画し、2015年3月、6月に日中NGO・ボランティア研修交流事業を実施した。3月の第1回は日本の学生6名が四川の被災地を訪問し、光明村で桜の木を絆の象徴として記念植樹した。また、6月には第2回として四川のNGO関係者を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越を訪問、視察し、専門家による講義を受け、今後の災害救援において連携を深める事ができた。

2016年は、第3回日中NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、日本の若者6名が四川省を訪れ、被災地の視察、被災者との交流、NGOとの学び合いを行った。同年は、元CODEボランティアの岸本くるみさんにご協力いただき防災教育を通じてNGOや社会的企業との交流を行い、現地のNGOは日本の防災教育の教材に非常に関心を示している。

2016年度の主な動き:

6/21～28 第27次派遣 (日中NGOボランティア事業の下見、老年活動センターの状況調査など)

<p>7/28 日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前説明会</p> <p>8/23 日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前学習会(ゲスト:岸本くるみさん)</p> <p>* 第 3 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業</p> <p>日時:2016 年 8 月 31 日~9 月 7 日(8 日間)</p> <p>場所:中国四川省の被災地</p> <p>参加者:神戸大学、神戸学院大学、同志社大学、人と防災未来センターなどの若者 6 名</p> <p>内容:被災地復興の視察、被災者へのヒアリングと交流、NGO との防災教育交流など</p> <p>第 27 回食と国際協力 四川で 13 年暮らして(植田麻紀さん、SIM さん)</p> <p>3/26 未来基金合同報告会で報告(室崎副代表、村上理事、村井理事、吉椿、上野、成安、今中、北川) *7-(5)と重掲</p>
--

事業名	1-(3)ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日~継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	<p>① CODE 海外研究員・クワウテモックさんの派遣(2010 年度~2011 年度)</p> <p>地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワウテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティ FM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。</p> <p>② ACSIS への支援(2010 年度~2012 年度)</p> <p>2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った(50 万円)。その後、AC SIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロファイナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011 年 1 月、約 128 万円(約 15,200 ドル)を送金し、40 人の女性に 100~500 米ドルが融資された。2012 年 8 月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の 7 割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となる状況もあった。</p> <p>③ 日本ハイチ協会「拠点支援(2013 年度~2015 年度)</p> <p>同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点</p>

の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル(年間 5000 ドル。約 130 万円)を送金した。現在、文化交流など各種イベントが行われている。2015 年末で日本ハイチ協会は、運営不振のため事務所を移転した。

④ シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい(2012 年度)

2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。

⑤ 「GEDDH」農業技術学校支援(2012 年度～)

ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会)と 2010 年に出会い、シスターの設立した NGO「GEDDH」の農業を支援する話が当初から出ていたものの、2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。しかし、2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校(ETAL)の建設を支援することが決定した。GEDDH には学校運営の経験が無いことから、2013 年 5 月現地や海外の関係者を含む顧問会(※)が設立され、この顧問会を ETAL の運営組織とすることが決まった。

2013 年 7 月に予算約 900～1000 万円で着工したが、8 月に土地の契約や顧問会内での役割分担をめぐる議論が生じ、一時中断となった。12 月、協定が再度まとめられ、建設再開の目処が立った。ETAL 名義での銀行口座が開設できしだい送金し、再着工する。シスター須藤の協力で在ハイチ日本大使館からの備品協力支援は次年度に持ち越すことになった。

その後、シスター須藤や Bourget 氏(カナダの農業専門家)、在ハイチ日本大使館の方などの協力により両者の調整を行い、2013 年 12 月に新たな契約書が交わされ、ようやく建設が再開される目途が立ち、顧問会の一人であるカナダの Sylvio さんが、ハイチで再開に向けた調整を行ってくれたので、その詳細な報告を受け、2 度目の送金を行った。

2014 年 9 月にはシスター須藤を神戸にお招きし、講演会を行い 80 名の方にお越しいただいた。これによりハイチの現状のアピールする事が出来、参加費やカンパなどの寄付(約 10 万円)などもあった。その後もシスター須藤の聖心女学院での講演料などを寄付していただいた。2015 年 3 月にも毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に 40 万円の寄付をいただいた。

その後 2014 年 9 月に 3 度目の送金を行い、2016 年 3 月現在、学校は完成し、5 月中旬には開校式を行う予定である。一方で 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。

2015 年度は、(2016 年 3 月に)災害看護支援機構(DNSO)の視察に同行して、農業技術学校の進捗状況を確認する予定であったが、2 月頃から現地の大統領選に伴うデモ活動によって治安が著しく悪化し、渡航が厳しい状況となった。また、3 月に中南米でデカ熱の感染が流行し、ハイチで感染者が出たことにより、DNSO と相談の結果、ハイチ訪問を見

合わせる事となった。2016年度も、災害看護支援機構(DNSO)との協議により先述の理由で渡航・視察が見合された。2016年10月にはハイリケーン・マシューが発生し、ハイチでも約1000名の死者を出し、現地顧問委員会やハイチ友の会など通じて状況把握に努めた。レオガンが被害は少なかった事や現地NGOの状況を鑑みて、支援を見送った。

※顧問会メンバー

(*メンバーが入れ替わったとの情報はありますが、詳細は把握できていない。)

- Mr. Sylvio Bourget カナダ人で、ケベック州在住。農業・植林の専門家、GEDDH設立時(2005年頃)から毎年1回ハイチに通い、農業を教えている。シスターとは修道会のつながりによる知り合い。
- Mr. Jean-Claude Leferve GEDDH事務局長。2月のシンポジウムに来日された方。
- Mr. Joseph Ustache Estalien GEDDHの中核メンバーで、農業の実務に最も詳しい方。JICAの研修で神戸にも来たことがある。
- Mr. Pere Gabriel Blot カトリックの司祭。ドイツのCalitasによって建設された技術専門学校事務局長。この学校には6部門の技術分野(建築、木工、配管、大工、ブリキ工、太陽光発電)があるが農業部門はない。大学ではないが、上級の学校とのこと。教師の給与はCalitasが1年間支援するが、その後は自分たちで賄わなくてはならないため、学校で生産したものを売って備えているという。
- Mr. Frere Olizar 聖テレシア会の修道士で、同修道会の総会計。学校の校長もしており学校の管理に慣れている。
- CODE 芹田代表

※Sylvio氏とCODEは遠隔のため、実務よりもアドバイザー的な関わりになる。

《参考》CODE訪問歴

クワウテモックさん

- 第一次: 2010年1月25日～3月10日
- 第二次: 2010年3月30日～5月15日
- 第三次: 2010年6月17日～9月5日
- 第四次: 2010年10月1日～12月20日
- 第五次: 2011年1月9日～3月31日

2010年8-9月:野崎理事

第六次:2012年8月:芹田代表、岡本

第七次:2013年5月:芹田代表、吉椿

※2013年6月～7月には、災害看護支援機構のアテンドとして吉椿事務局長が同行した。

その他

2013/2/4 シスター須藤が事務所を訪問

2014/9/23 シスター須藤の講演会を主催(あすつてふ神戸 参加人数80名)

2014/10/28 シスター須藤の講演会をサポート(小林聖心女子学院)(吉椿)

2015/3	毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に寄付(40万円)をいただいた。
2015/4/27	シスター須藤と大瀧さん(大阪大学大学院生)と打合せ(吉椿)
2016/1/18	災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿)
2016/4/21	災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿)
2017/10月	ハイリケーン・マシュー被害に伴い、状況確認(吉椿)
2017/3/24	ハイチ友の会小澤先生への電話ヒアリング(吉椿)

事業名	1-(4)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省540万人、玉樹チベット族自治州人口28万人、玉樹県10万人
実施内容	<p>地震発生後、四川省地震(2008年)以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」や四川省で共に活動したNGO、ボランティアを通して被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を2度青海省に派遣し、同省玉樹で最大のNGOのひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group, SSG)」や中国のNGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。</p> <p>並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん(アラフマイアニ・フェイサル)とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで2011年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。</p> <p>2012年7月の第3次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、2013年4月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。</p> <p>2014年8月に吉椿が現地を再訪し、ヤク銀行プロジェクトやヤクの飼育などの状況を視察した。カトゥ村の遊牧民家族に提供された37頭のヤクは、現在、53頭に増えた。</p> <p>2015年8月には、カウンターパートのイアニさんが現地を訪問し、母ヤクが8頭を出産したが、5頭が病気などで死亡したことで現在のヤクの総数は56頭であることを確認した。</p> <p>2016年8月に現地を訪問したイアニさんの報告では、地元の県政府が、CODEの提案したヤク銀行プロジェクトに注目し、新たな約200頭とCODEの56頭を集約し、遊牧民へのヤクの再分配を行うことになった。CODEの提供した56頭のヤクを飼育している遊牧民ロブサンは、1/3のヤク(19頭)を得ている。これは、NGOによる提案が現地政府によって引き継がれたといえる。</p> <p>これは、ヤク銀行だけでなく、イアニさんと僧侶が行って来た植林、ゴミの分別、有機</p>

	<p>農業、水管理なども同様に集約して政府のサポートを受けている。これらの政府の意図やねらいについては、イアニさんによると、政府がチベット高原の危機的な環境問題(草原の後退など)に対してイメージアップをはかりたいのではないかということであった。イアニさんとヤク銀行委員会の協議では、政府のサポートを受ける事やヤクの再分配について同意しているという。</p> <p>* 2016 年 8 月 イアニさんがラブ村を訪問。</p>
--	--

事業名	1-(5)インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006 年 5 月 27 日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援(同 4 月施工完了)。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代の差益をプールしてナマズの養殖などの事業向け小規模融資を実施するなどである。</p> <p>2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、CODE 正会員である神戸学院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に2010、2011、2012 年はスタッフの岡本が、2013 年は村井理事が同行させていただき、情報収集を行った。</p> <p>2014 年以降は、神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE 正会員)たちが毎年、現地を訪問しており、同教授らが立ち上げた「ヤギ基金プロジェクト」を共有させていただいている。</p> <p>* 2016 年 9 月 神戸学院大学の浅野先生や学生がインドネシアを訪問。</p>

事業名	1-(6)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後、いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを

	<p>通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011年4月1日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、金沢大学と連携し、2012年3月末に中国四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日には CODE 関係者などと交流会を行った。</p> <p>2012年度(2013年2月)には10周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト3名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。</p> <p>2013年、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けたことから、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至っていない。</p> <p>2016年度も東日本の被災地の厳しい状況を被災地 NGO 協働センターと共有し、状況に応じて対応する体制をとってきた。</p>
--	--

事業名	1-(7)フィリピン台風被災地救援プロジェクト
実施日時	2013年11月8日～継続中
実施場所	フィリピン セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>2013年11月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan(現地名 Yolanda)は、フィリピン中部のレイテ、サマルル、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODE は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014年1月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC (Southern Partner Fair Trade Center)、FIDEC (Fisherfolk Development Center) や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。</p> <p>また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ (Association) を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO とより強固な信頼関係を築く。</p> <p>2014年2月に150万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の事務員と吉椿が3月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE に集まった寄付金約300万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の6つのバラングイ(最小行政単位)にボートを提供し、3世帯の漁民で1つのボートを共有することになった。</p> <p>提供されるボートの種類、数、共有方法などは、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と各バラングイの住民組織 (Association) が協議しながら決めている。</p> <p>2014年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作が開始され、2015年2月にはボート2艘がバンタヤン島のバラングイ Pooc の被災漁民に提供され始め、これまでに Pooc、Ocoy、Aningan、Victria、Polambato</p>

	<p>の 5 つの地域に7艘のボートを提供した。残りの 5 艘は、材料不足の影響で遅れていたが、2016 年 12 月にすべてのボートの提供が完了した。その後の住民教育に関しては、北陸学院との JICA 草の根技術協力事業の中で実施していくことになった。</p> <p>* 2016 年度の動き</p> <p>4/13 JICA 草の根技術協力事業について田中先生(北陸学院大学)と打合せ(吉椿)</p> <p>6/29~7/3 JICA 草の根技術協力事業でフィリピン訪問(吉椿)</p> <p>7/13 未来基金フィリピンフィールド研修の事前説明会(吉椿、上野)</p> <p>7/17 未来基金フィリピンフィールド研修の打合せ(上野)</p> <p>7/27 未来基金フィリピンフィールド研修の打合せ(吉椿)</p> <p>8/2 JICA 草の根技術協力事業について田中先生(北陸学院大学)と打合せ(吉椿、上野)</p> <p>8/7 未来基金フィリピンフィールド研修の直前研修(吉椿、上野)</p> <p>8/10~18 未来基金フィリピンフィールド研修に同行(上野)</p> <p>8/29 未来基金フィリピンフィールド研修事後ヒアリング(吉椿、上野)</p> <p>12/15 第 29 回食と国際協力「フィリピン」で宮津さん(神戸大学)が報告</p> <p>1/10 JICA 草の根技術協力事業の打合せ(金沢)(吉椿、斉藤)</p> <p>2/5~10 JICA 草の根技術協力事業でフィリピンへ専門家派遣(斉藤)</p> <p>3/26 未来基金合同報告会でフィリピン報告 * 7-(5)と重掲 (室崎副代表、村上理事、村井理事、吉椿、上野、宮津、河村、羽田)</p>
--	--

事業名	1-(8) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者 約 3500 人
実施内容	<p>●地震発生からの経緯</p> <p>ネパールでは、81 年ぶりに大規模な地震(M7.8)に襲われた。ネパール全 75 郡のうち 39 郡が被災し、うち 29 郡が大きな被害を受けた。被害の概要は以下のとおり。死者 8650 名、被害家屋約 77 万棟、被災者約 810 万人(国民の約 3 分の 1)。</p> <p>CODE は元スタッフ、斉藤容子さんや故黒田裕子理事の団体の元ボランティアの井上想さん、神戸在住のネパール人、ラクパ・シェルパさんなどのつながりを通じてネパールにスタッフ 2 名(吉椿、上野)を派遣し、調査を行った。この派遣によってネパールの伝統建築家、篤農家、日本人医師、山岳民族シェルパ族のコミュニティなどとの関係を築いた。</p> <p>その後、雨期対策としてラクパさんの故郷のグデル村でテントシートを配る「CODE3000 プロジェクト」を行った。その後、この村は、アクセスが悪く支援が届いていないことから CODE は石、木、竹、泥などの地元の資材を使った耐震住宅再建を行い、地元の大工、石工たちがモデルハウス建設を通して耐震技術を学ぶ「耐震住宅再建プロジェクト」を決定した。</p>

* 耐震住宅再建プロジェクト

2015 年末より耐震住宅再建プロジェクトが本格始動した。2015 年末から京都建築専門学校
の学生、山本耕資さんを派遣し、日本とネパールの大工の技術交流を行った。また、
2016 年 1 月より Khwopa 工科大学のモーハン・パント先生のご協力により建築の専門家 2
名を派遣し、現地の大工、石工たちに耐震の指導を行った。約 13 名の大工・石工がこのプ
ロジェクトにかかわり、中でもニマ・シェルパさんはこれを機に村に戻り、大工として生きて
いく事を決意した。モデルハウスは、2016 年夏に完成し、約半年間をかけた大工・石工た
ちの学びの場となった。ここで耐震技術を学んだ大工・石工たちは、その後チームに分か
れて 26 棟の住宅を再建した。2017 年 3 月には 26 棟の耐震住宅が完成した。グデル村で
の復興庁の調査では好評をいただき、地元ソルクンブ郡のラジオでも取り上げられた。

2017 年 2 月には西宮の「夢広の会」の支援する同郡パタンジェ村のコミュニティセンター
建設プロジェクトでも、北茂紀さんに耐震構造の指導をいただき、グデル村からニマさんな
ど大工 2 名が 2 回現地に指導に行った。その状況は、ネパール第 6 次派遣で確認した。

* 2016 年度の主な動き:

- 4/7 兵庫県立大学宮本先生との打ち合わせ(吉椿)
- 4/16 ネパール復興支援フェスタに参加(吉椿)
- 4/20 兵庫県立大学青田先生、馬場先生と打合せ(吉椿)
- 4/21 災害看護支援機構(DNSO)とネパール支援の打ち合せ(吉椿)
- 4/23 JPF シンポジウム「思い出そう、思い続けて行こうネパール」でパネリスト(吉椿)
- 5/10 チームひょうご報告会で報告(室崎副代表、吉椿)
- 5/17 FM あまがさき 野口さん訪問(吉椿)
- 5/18 コープこうべ ネパール打合せ(吉椿)
- 5/19 第 23 回食と国際協力「ネパールのハニーハンター」(米川さん)
- 7/10 夢広の会ネパール地震報告会に参加(吉椿)
- 7/17 三木の大工稲見さんとネパール地震支援の打合せ(村井理事、吉椿)
- 7/29 コープこうべとネパール支援ツアーの打合せ(ラクパさん、村井理事、吉椿)
- 8/19 神戸大学生ネパール地震ヒアリング(吉椿)
- 8/26 未来基金ネパールフィールド研修打合せ(立浪、吉椿、上野)
- 9/27 夢広の会とネパール地震支援の打ち合せ(吉椿)
- 10/2 いやしフェアでネパール地震支援の講演(吉椿)
- 10/4~11/16 グデル村大工ニマ・シェルパさん来日
(三木の大工、竹中大工道具館、岡山の伝統建築、京町家、淡路島、
京都建築専門学校、北茂紀さんの研修などに同行)
(村上理事、村井理事、吉椿、上野)
- 10/11 SVA 竹内さん、ネパール支援のヒアリング(吉椿)
チームひょうご報告会で報告(ニマさん、ラクパさん、吉椿)
- 10/20 夢広の会とネパール地震支援の打ち合せ(吉椿、上野)
- 10/26 北茂紀氏のニマさんへの講義、夢広の会との打ち合わせ(村井理事、吉椿、上野)
- 10/31 未来基金ネパールフィールド研修打合せ(立浪、吉椿、上野)

<p>11/10 第 28 回食と国際協力「ネパールの大工」(ニマ・シェルパさん)</p> <p>11/16 神戸新聞ネパール取材(ニマさん、吉椿) ニマさん帰国</p> <p>11/25 兵庫県立大学宮本先生、立浪さんとの打ち合わせ(吉椿)</p> <p>12/5～12 コープこうべネパール被災地視察(山添理事、吉椿)</p> <p>12/14 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング(立浪、今中、吉椿、上野)</p> <p>12/22 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング(立浪、今中、宮本、吉椿、上野)</p> <p>2017 年</p> <p>1/13 コープこうべネパール被災地視察報告会打合せ(山添理事、吉椿)</p> <p>1/26 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング (高橋、今中、宮本、頼政、吉椿、上野)</p> <p>2/9 夢広の会とネパール地震支援の打ち合せ(ラクパさん、村井理事、吉椿、上野)</p> <p>2/13 コープこうべとネパール被災地支援の打ち合せ (山添理事、村井理事、ラクパさん、吉椿)</p> <p>2/15 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング(立浪、今中、上野)</p> <p>2/20 チームひょうご報告会で報告(室崎副代表、吉椿)</p> <p>2/22～3/5 未来基金ネパールフィールド研修に同行(吉椿)</p> <p>3/2～3/14 第 6 次派遣(村井理事、上野)</p> <p>3/9 コープこうべネパール被災地視察報告会で報告(山添理事、吉椿)</p> <p>3/16 第 31 回食と国際協力「ネパールの村を訪ねて」(立浪)</p> <p>3/26 未来基金合同報告会 * 7-(5)と重掲 (室崎副代表、村上理事、村井理事、吉椿、上野、立浪、今中、高橋)</p>

事業名(継続)	1-(9) エクアドル地震救援プロジェクト <<終了>>
実施日時	2016 年 4 月 17 日(日本時間)～2016 年 12 月
実施場所	エクアドル北西部ポルトビエホ、マンタ、ペデルナレス、エスメラルダス
受益対象者の範囲及び予定人数	エクアドル地震のエスメラルダスの被災者 約 387 世帯
実施内容	<p>●地震の概要と経緯</p> <p>2016 年 4 月 17 日、南米エクアドルで M7.8 の地震が発生し、死者 663 名、行方不明 48 名、負傷者 17000 名以上の被害を出し、総被災者は約 72 万人にのぼる。また、避難キャンプではジカ熱などの感染症も発生した。日本では、熊本地震(4 月 14 日、16 日)と時期が重なったことから、ほとんど注目されていないのが現状であるが、CODE の新旧の支援者のご協力により、これまでに約 22 万円の寄付が寄せられた。</p> <p>CODE は、地震直後、メキシコのクワテモックさんやチリ地震(2010 年)支援として実施した「チリ-高知交流事業」の際に日本に招聘した Isabel さんにコンタクトをとり、情報収集を行ってきた。また、東日本大震災でつながった日本人ボランティアの方を通じて現地情報やスペイン語メディアの情報の翻訳も行って来た。</p> <p>チリの Isabel さんの紹介により、エクアドルの Doris さん(開発の NGO、HIVOS のスタッ</p>

	<p>フ) 経由で災害救援を行っているINGO のエクアドル支部である「VECO-ANDINO」とつながった。「VECO-ANDINO」は、被災地エスメラルダス(被災者 17907 人)の「UOPROCAE」というカカオ栽培の農業団体と連携して、カカオ農家の支援を展開している。活動は、地震によってきれいな水へのアクセスが困難になった農家に対して水の濾過キットの提供、地震による離農を防ぐために、カカオ農家へのより近代的な剪定や栽培の農具の提供などを行っている。</p> <p>CODE は、2016 年 12 月に寄付金全額を「VECO-ANDINO」に送金し、被災地エスメラルダスで水のろ過フィルターを提供し、飲料水や農業用水を確保した。また、感染症の予防のための衛生キットも提供した。その他、現地のカカオ農家の生業支援のための生産補助機具を購入した。これによって本事業は終了した。</p>
--	---

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2013 年度より吉椿雅道を事務局長として若者の CODE へのかかわり、および事務局体制の充実化を図ってきた。スタッフの上野智彦(27 歳)は、関西 NGO 協議会等の勉強会に積極的に参加し、フィリピンやネパールの被災地の現場経験を経て、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。現在は、主に未来基金運営や CODE レター製作などを中心に活動している。</p> <p>2016 年度は、事務所を共有する被災地 NGO 協働センターの協力のもと、1 名の大学生のボランティアに協力してもらい、食と国際協力や英語の翻訳などを行ってきた。</p> <p>また 2015 年度末にファンドレイジング研修(関西 NGO 協議会主催)を受講したことや NHK の番組の反響もあって、2016 年度は、新規会員の獲得と事務局内の過去のデータの整理に取り組んできた。引き続きそのデータを分析をより充実させ、新規の会員、寄付者の拡大などの今後の事務局運営に活かしていく。</p>

事業名	2-(2) NGO ことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>2016 年度は、村井理事を講師に CODE 寺子屋を 1 回開催し、スタッフやボランティアなどの若い人たちが CODE の理念や活動を学ぶ場を提供した。</p> <p>* CODE 寺子屋「NGO ってなんだろう？」講師:村井理事 2015 年 9 月 23 日 参加者:10 人</p>

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>月に一度開催している「食と国際協力」や日中 NGO・ボランティア研修交流事業、未来基金事業などを通じて若者が集う場を提供してきた。特に未来基金を通じて CODE の関わる若い人も増えてきている。2016 年度は、熊本地震の際に CODE の支援者・協力者が被災地 NGO 協働センターを通じてボランティアや寄付をおこなった。</p> <p>また、被災地 NGO 協働センターの協力で事務局ボランティア 1 名、翻訳ボランティア 1 名の方に協力していただいた。その他、災害発生時などは複数の翻訳ボランティアにご協力いただいている。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	毎月第 3 木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらうと同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。2016 年度末までに 31 回を開催した。</p> <p>* これまで開催された内容は以下の通り。</p> <p>第 1 回 れーずんの会 (CODE) (2014 年 3 月 28 日) 参加人数: 11 名</p> <p>第 2 回 れーずんの会 (村井理事) (2014 年 4 月 25 日) 参加人数: 15 名</p> <p>第 3 回 フィリピンからまなび (PEPUP 中山さん+吉椿) (2014 年 5 月 15 日) 参加人数: 13 名</p> <p>第 4 回 インドネシアとつながる (JICA 兵庫デスク 中村さん+村井理事) (2014 年 6 月 19 日) 参加人数: 15 名</p> <p>第 5 回 食から見る日本とアメリカ (ワールドユースジャパン 学生+多田、上野) (2014 年 7 月 15 日) 参加人数: 21 名</p> <p>第 6 回 青海省チベット高原から (吉椿) (2014 年 8 月 21 日) 参加人数: 11 名</p> <p>第 7 回 ハイチからのたより (シスター須藤+吉椿) (2014 年 9 月 24 日) 参加人数: 11 名</p> <p>第 8 回 れーずんの会 (村井理事、多田) (2014 年 10 月 16 日) 参加人数: 11 名</p> <p>第 9 回 イランってどんな国? (奥、ナヒド夫妻+CODE) (2014 年 11 月 20 日)</p>

- 参加人数:11名
- 第10回 台湾とのきずな(李勇昕さん)(2014年12月18日) 参加人数:9名
- 第11回 バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国
(人と防災未来センター 齊藤さん)(2015年2月19日) 参加人数:13名
- 第12回 中国四川の風土と食(吉椿)(2015年3月19日) 参加人数:7名
- 第13回 れーずんの会(村井理事)(2015年4月16日) 参加人数:10名
- 第14回 カンボジアの子どもたち～アンコールの風～
(SVAカンボジア事務所 ソティア・ロアットさん)(2015年6月2日) 参加人数:15名
- 第15回 スリランカという国～インド洋の島国の生活～ 参加人数:11名
(人と防災未来センター 齊藤容子さん)(2015年8月20日)
- 第16回 ヒマラヤの民シェルパ～ネパール標高3000mの暮らし 参加人数:18名
(Royal Orchid Treks ラクパ・シェルパさん)(2015年9月17日)
- 第17回 イランってどんな国～イランの人たちと出会って～
(在神戸イラン人夫妻 奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん)
(2015年10月15日) 参加人数:11名
- 第18回 れーずんの会(村井理事)(2015年11月19日) 参加人数:8名
- 第19回 フィリピンの食と暮らし～セブ島の「食」から見えること～ 参加人数:9名
(神戸大学PEPUP 坂元さん、CODE上野)(2015年12月17日)
- 第20回 エルサルバドルってどこ?どんな国? (2016年2月18日)
(人と防災未来センター 岸本くるみさん) 参加人数:12名
- 第21回 台湾の寄付文化(京都大学防災研究所 李勇昕さん)
(2016年3月17日) 参加人数:13名
- *2017年度
- 第22回 9.11から14年(CODE理事 村井雅清)
(2016年4月14日) 参加人数:17名
- 第23回 ネパールのハニーハンター(ハニールネッサンス 米川安寿さん)
(2016年5月19日) 参加人数:15名
- 第24回 バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国
(暮らし研究所ままどころ 齊藤容子さん)
(2016年6月16日) 参加人数:10名
- 第25回 多様な雲南～日本のルーツを求めて(CODE事務局長 吉椿雅道)
(2016年7月21日) 参加人数:10名
- 第26回 イランってどんな国～イランの人たちと出会って～
(在神戸イラン人夫妻 奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん)
(2016年9月15日) 参加人数:14名
- 第27回 中国・四川での暮らし～13年間の生活から見えてきたもの～
(植田麻紀さん、Simさん夫妻)(2016年10月21日) 参加人数:17名
- 第28回 ネパールの大工、語る。～ネパールの若者から見たネパール～
(ニマ・シェルパさん) (2016年11月10日) 参加人数:25名
- 第29回 若者が見たフィリピン～未来基金のフィールドワークの活動を語る～

	(神戸大学 宮津隆太さん) (2016年12月15日) 参加人数:10名 第30回 台湾の寄付文化 (京都大学防災研究所 李勇昕さん) (2017年2月16日) 参加人数:9名 第31回 ネパールの村を訪れて(兵庫県立大学 立浪雅美さん) (2017年3月16日) 参加人数:13名
--	---

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	これまでに「World Voice」として、災害後の情報を UNOCHA の「Relief web」を翻訳する事で積極的に発信してきた。2013年のフィリピン台風の際は、全国から翻訳ボランティア・情報収集ボランティアの申し出があり、広く協力いただいた。現在もHPの英語訳などにボランティアの方の協力を得ている。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約40名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣 CODEとのコラボレーション事業という位置付けで、9年目となる2016年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱを村井理事が、以下の講師陣と共に下記の通り実施した。受講人数は約40名。 《内容》 9/20(火) 第1回 ガイダンス(村井理事) 9/27(火) 第2回 阪神淡路大震災20年とボランティア(村井理事) 10/4(火) 第3回 東日本大震災など国内災害とボランティア(村井理事) 10/11(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事) 10/18(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について (吉椿) 10/25(火) 第6回 フィリピン台風の復興から学ぶ(吉椿、上野) 11/1(火) 第7回 四川大地震から学ぶ民際交流(吉椿) 11/8(火) 第8回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿) 11/15(火) 第9回 アフガニスタンと開発援助(村井理事)

	<p>11/22(火) 第 10 回 ネパール地震後の再建から現地の暮らしと自然との共生を学ぶ (村井理事、上野)</p> <p>11/29(火) 第 11 回 東日本大震災とジェンダー(齊藤容子さん)</p> <p>12/6(火) 第 12 回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん)</p> <p>12/13(火) 第 13 回 農業と持続可能な社会(本野一郎さん)</p> <p>12/20(火) 第 14 回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>1/17(木) 第 15 回 まとめ(村井理事)</p> <p>その他の講義、シンポジウムなどにも講師として派遣した。 5月7日(土) 神戸学院大学社会貢献入門で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ 昨年に続き、9月12日から16日まで5日間、学生インターン3名を受け入れた。</p>
--	--

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》神戸女子大学
実施日時	5月から7月まで、毎週金曜日第2限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生40名
実施内容	<p>2015年度より神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事が講師として授業を行っている。2016年度の実施内容は以下の通り。</p> <p>5/13(金) ボランティアの歴史 ～「セツルメント運動」から災害救援へ～</p> <p>5/20(金) CODE 海外災害援助市民センターの活動について ～困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う～</p> <p>5/27(金) 災害と貧困 ～貧困脱出と災害復興との関係～</p> <p>6/3(金) 異文化理解と支援 ～宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する～</p> <p>6/10(金) 中国四川省地震と支援のあり方 ～人と人はつながる～</p> <p>6/17(金) 女性の生活向上支援と自立 ～教育のもたらす意義～</p> <p>6/24(金) 長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン ～人為災害と自然災害と戦う人々～</p> <p>7/1(金) 紛争後の支援から12年、アフガニスタンの今 ～平和構築への課題～</p> <p>7/8(金) 保護とエンパワーメント</p> <p>7/15(金) 新たなチャレンジ ～ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ～</p>

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》関西 NGO 協議会
実施日時	随時

実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣 11月2日 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p> <p>② NGO-JICA 協議会、および提言専門委員会への参加 村井理事が提言専門委員を担っているが、2016 年度は委員会が十分な委員を確保できなかったことから休会となっている。</p>

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》北陸学院大学(JICA 草の根技術協力事業)《新規》
実施日時	2016年4月～2018年3月
実施場所	フィリピンセブ島、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>JICA 草の根技術協力事業(新・草の根協力支援型)として、JICA 北陸と北陸学院大学とのコラボで CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で実施している。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出し、女性の地位向上をめざす。また、地域の防災リーダーの育成をめざし、コミュニティ防災に貢献する。</p> <p>* 主な動き</p> <p>2016年</p> <p>6月29日～7月3日</p> <p>・JICA 北陸、北陸学院大学の田中先生とフィリピン訪問(吉椿) *1-(7)と重掲</p> <p>8月2日 ・JICA 草の根技術協力事業について田中先生と打合せ(吉椿、上野)</p> <p>2017年</p> <p>1月10日 ・JICA 草の根技術協力事業の打合せ(金沢)(吉椿、齊藤)</p> <p>2月5日～10日・JICA 草の根技術協力事業でフィリピンへ専門家派遣(齊藤)</p>

事業名	4-(4) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>5月21日 第15回定期総会に出席(吉椿、上野)</p> <p>6月21日 第3回関西 CS ネットワークフォーラムに参加(上野)</p>

7月10日 関西地域 NGO 助成プログラム最終審査に参加(上野)
12月23日 ワンワールドフェスタ for YOUTH でワークショップ、ブース出展
(吉椿、上野、今中)

2017年

2月11日 ひょうご・こうべワールドミーツ for YOUTH でブース出展
(吉椿、上野、今中)

② コープこうべとの連携

5月18日 コープこうべネパール支援の打合せ(吉椿) *1-8と重複
6月16日 コープこうべ第95期通常総代会に出席(吉椿)
7月23日 コープこうべ平和の集いでレーズン販売(上野) *1-1と重複
7月29日 コープこうべとネパール支援ツアーの打合せ(ラクパさん、村井理事、吉椿)
*1-8と重複
8月25日 ハート基金動画撮影(吉椿)
12月5日~12日 コープこうべネパール被災地視察
(山添理事、コープエイシス尾崎さん、吉椿) *1-8と重複

2017年

1月13日 コープこうべネパール被災地視察報告会打合せ(山添理事、吉椿)
*1-8と重複
2月13日 コープこうべとネパール被災地支援の打ち合せ
(山添理事、村井理事、ラクパさん、吉椿) *1-8と重複
2月26日 コープこうべ(兵庫)サークルくらぶ発表会でレーズン販売(上野)
*1-1と重複
3月9日 コープこうべネパール被災地視察報告会で報告(山添理事、吉椿)
*1-8と重複
3月18日 ユニセフの集いでレーズン販売(吉椿、上野) *1-1と重複

③ 若者の団体とのネットワーク

2016年度は、未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。フィリピン事業での「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノデカラプロジェクト」、「神戸大学 PEPUP」、四川事業では、「まなびと」や「神戸大学救援隊」、関西学院大学ニューマンサービスセンター、コトハナなどとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員会」とは、海外インターン送り出し事務局の面談委員を吉椿が担っている。また、今度は、葦合高校、甲南大学、神戸大学、兵庫県立大学、愛媛大学などの学生のヒアリングがあった。

7月9日 アイセック神戸大学委員会で講義(吉椿)

	<p>7月28日 NPO コトハナ G7 保健大臣会合企画インタビュー(吉椿)</p> <p>11月18日 アイセック神戸大学委員会送り出し事業局の面談(吉椿)</p> <p>12月9日 アイセック神戸大学委員会送り出し事業局との打ち合わせ(吉椿)</p> <p>12月26日 アイセック神戸大学委員会送り出し事業局の面談(吉椿)</p> <p>④ その他</p> <p>7月20日 JICA 関西 NGO との意見交換会に出席(吉椿)</p> <p>11月21日 ひょうご安全の日総会に出席(吉椿)</p> <p>1月20日 国際防災・人道支援フォーラム 2017に参加(吉椿)</p> <p>1月24日 国際復興フォーラム 2017に参加(吉椿)</p> <p>2月9日 JICA 関西防災研修センター小野さん来所(村井理事、吉椿、上野)</p> <p>3月9日 JICA 関西 NGO との意見交換会に出席(吉椿)</p> <p>3月23日 シャンティ国際ボランティア会(SVA)の市川さん訪問(村井理事、吉椿)</p>
--	---

事業名	4-(5) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係構築してきた。引き続き本ネットワークとの連携を深め、防災や今後の災害救援に活かしていく。</p> <p>② 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「四川尚明公益発展研究センター」、「NGO備災センター」、「杏基金」などとの連携を、2015年、2016年に実施した日中NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。</p> <p>③ 2015年4月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016年度は、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村の「伝統と文化を守る若者の会」(仮称)や「夢広の会」との関係構築してきた。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所

受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	今年度後半に CODE 寺子屋を芹田代表理事、室崎副代表理事、松本理事の 3 名を講師に実施する予定であったが、ネパール地震支援(大工招へい事業など)で実施にいたらなかった。次年度に実施する。

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大																		
実施日時	随時																		
実施場所	CODE 事務所、その他																		
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数																		
実施内容	<p>現在の会員の状況:</p> <p>正会員 : 24(団体 3、個人 21)</p> <p>賛助会員 : 123 名(団体 2、個人 121) 計: 147 名・団体</p> <p>(* 2014 年度は 92 名・団体、2015 年は 120 名・団体)</p> <p>2016 年 2 月、3 月に参加したファンドレイジング研修(主催: 関西 NGO 協議会)を受けて、事務局で会員、寄付者の増加をはかるために、過去の会員、寄付者の名簿の整理、分析を行っているが、引き続き継続して分析を行う。</p> <p>また、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」(2016/3/14 放送)の反響で、2015 年度から 2016 年度にかけて賛助会員や新規の寄付者も大幅に増えた。現在、この新規の会員、寄付者に対して CODE レターの送付を継続的に行っている。</p> <p>2014 年度より gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金を開始し、約 22,000 円/年の寄付があった。2015 年度の総額は、ネパール地震の影響で 57,467 円と増えた。</p> <p>* 2016 年度の寄付額は以下の通り。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">2016 年 4 月 2965 円</td> <td style="width: 33%;">10 月 2382 円</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td>5 月 2617 円</td> <td>11 月 1512 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 月 1646 円</td> <td>12 月 1409 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 月 2130 円</td> <td>2017 年 1 月 1732 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 月 1617 円</td> <td>2 月 1680 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 月 1393 円</td> <td>3 月 1124 円</td> <td style="text-align: right;">合計: 22,207 円</td> </tr> </table> <p>また、2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、今年度も年間 15000 円の広告費を得た。</p>	2016 年 4 月 2965 円	10 月 2382 円		5 月 2617 円	11 月 1512 円		6 月 1646 円	12 月 1409 円		7 月 2130 円	2017 年 1 月 1732 円		8 月 1617 円	2 月 1680 円		9 月 1393 円	3 月 1124 円	合計: 22,207 円
2016 年 4 月 2965 円	10 月 2382 円																		
5 月 2617 円	11 月 1512 円																		
6 月 1646 円	12 月 1409 円																		
7 月 2130 円	2017 年 1 月 1732 円																		
8 月 1617 円	2 月 1680 円																		
9 月 1393 円	3 月 1124 円	合計: 22,207 円																	

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。</p> <p>* CODE 未来基金報告会 日時:2017年3月26日 場所:こうべまちづくり会館 報告者:未来基金フィールド研修(フィリピン、ネパール)、 日中 NGO・ボランティア研修交流事業に参加した学生 10 名 参加者:27 名(室崎、村上、村井理事も参加)</p> <p>② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <p>4月23日 JPF シンポジウム「思い出そう、思い続けて行こうネパール」 でパネリスト(吉椿) *1-(8)と重掲</p> <p>5月10日 チームひょうご報告会で報告(室崎、吉椿) *1-(8)と重掲</p> <p>5月28日 たつの市御津ボランティア交流会で講演(吉椿)</p> <p>6月3日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事) *4-(2)と重掲</p> <p>6月10日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>6月17日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>6月18日 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)</p> <p>6月24日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>7月1日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>7月8日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事) 関西学院大学フォーラム「四川と熊本をつなぐ復興知の可能性」に登壇 (吉椿)</p> <p>7月15日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)</p> <p>7月26日 神戸大学総合教育科目「阪神・淡路大震災 A.B」で講義(吉椿)</p> <p>7月27日 西脇工業高校などの教師へ「ボランティア精神に学ぶ」で講演(吉椿)</p> <p>9月12日 舞子高校「世界の災害と NGO による国際協力」で講義(吉椿)</p> <p>9月27日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) *4-(1)と重掲</p> <p>10月2日 いやしフェア(須磨寺)で講演(吉椿)</p> <p>10月4日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)</p> <p>10月11日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) チームひょうご報告会で報告(ニマさん、ラクパさん、吉椿) *1-(8)と重掲</p> <p>10月18日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)</p> <p>10月25日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)</p>

10月29日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで補講(村井理事)	
11月1日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)	
11月2日	龍谷大学「国際 NGO 論」で講義(吉椿)	
11月2日	西脇工業高校の教師への勉強会で講義(吉椿)	
11月8日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)	
11月15日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	
11月22日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事、上野)	
11月24日	桃山学院中学で講演(吉椿)	
12月3日	高松市立鬼無小学校 校長教頭会で講演(吉椿)	
12月16日	神戸大学国際協力研究科で講義(吉椿)	
12月20日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(松本理事)	
12月21日	西脇工業高校で講演(吉椿)	
12月23日	ワンワールドフェスタ for YOUTH でワークショップ(吉椿)	
2017年		
1月17日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	
2月2日	松山市立聖カタリナ高校で講演(吉椿)	
	愛媛大学で講演(吉椿)	
2月20日	チームひょうご報告会で報告(室崎、吉椿)	*1-(8)と重掲
3月9日	コープこうべネパール被災地視察報告会で報告(山添、吉椿)	
		*1-(8)と重掲
3月11日	かながわ国際交流財団「災害をきっかけにした人づくりの支援」で講演(吉椿)	

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地へ約1000通発送 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>2016年度9月発行のVol.56より機関誌「CODE レター」をカラー化し、一定の定評を得ている。2016年度は、5月(839通)、9月(1029通)、1月(1013通)の計3回を会員と寄付者(リピーター、新規)に発送した。</p> <p>2013年度よりインターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、ホームページも2014年度にリニューアルした。</p> <p>その他 gooddo やソーシャルアクションリングなどの媒体を通じて CODE の活動を広報してきた。*6-(1)と重複</p> <p>2017年3月末時点で、CODE の FB に「いいね」をした人は1295人である。 (2015年度末は648人、2016年度末は1125人)</p>

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2011年10月度理事会でCODE AIDを立ち上げることを決定したが、2012年度になり認定NPO法人の取得には最低2年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。</p> <p>なお、理事候補は浅野壽夫氏(神戸学院大学教授)、大森保美氏(株式会社大森工業社長)、林晃史氏(弁護士)、芹田健太郎現CODE代表理事(神戸大学名誉教授)の4名、監事候補は安井一浩氏(公認会計士・神戸学院大学准教授)である。2013年度の総会および懇親会「CODEのタベ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014年の「CODEのタベ」にも大森氏にご参加いただいた。</p>

事業名	7-(5) CODE 未来基金
実施日時	2014年12月10日～
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害NGOで働く若者、または将来的に災害NGOで働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>これまでのCODEの事業で3年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額(約1000万円)の資金を活用して、2015年度4月より「CODE未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第1回神戸宣言の採択の日である12月10日に承認された。</p> <p>また、2005年度から始まったCODEスタッフへの奨学金制度は、理事会の承認を経て未来基金の項目に統合した。今後、該当者がいれば、未来基金としてその都度、対応していく。</p> <p>●「CODE未来基金」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旨: 災害救援を主たる目的とするNGOを志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容: 以下の3部門 <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ・・・将来、CODEなど災害NGOで働きたい若者がCODEで有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODEの支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。 3. NGOセミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。 ・基金の財源: CODEの過去のプロジェクト費と寄付金を活用する。

CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。

・寄付について: * 一般寄付

個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円

* 未来基金サポーター

年会費: 1,000 円

・運営・選考: 上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。

選考委員: 芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の 4 名と

西海恵都子(神戸新聞編集局報道部長)、宮本匠(兵庫県立大学)の 2 名の外部委員から構成される。

●これまでの動きと現状

2014 年 5 月に菊池健さん(社会を動かす研究所、元パナソニック役員)にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名(上野、頼政)がゲンゼ(株)の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その後も選考委員でもある山添、榛木、松田の 3 名の CODE 理事や企業、学生などの意見を踏まえ、未来基金のしくみ、運営、募集などの検討を重ねてきた。

2016 年度は、榛木理事や村井理事のご協力により事務局ミーティングを 3 回程度行い、寄付やサポーター、参加学生の活用などの議論を重ねてきた。

未来基金のフィールド研修部門は、参加学生も多く、盛り上がりを見せたが、寄付やサポーター会員の獲得に対する動きは鈍かった。参加学生と共に寄付者、サポーターの獲得を戦略的に考えなくてはならない。

●事業に関して

2016 年度は前期、後期共に 1 件のフィールド研修部門に申し込みがあり、それぞれ採択された。

●寄付、サポーターの状況:

2015 年度: 159 万 2417 円(寄付 10 名、サポーター 3 名)

(* 将学金返済の 50 万円を含む)

2016 年度: 206 万 1159 円(寄付 21 名、サポーター 74 名)

合計: 365 万 3576 円(寄付 31 名、サポーター 77 名)

2015 年度末から 2016 年度初めにかけて NHK の番組に出演したことで大口の寄付があり増額したが、通常時の寄付は少なく、基金の年間運営の収支のバランスが取れていな

い。

上記のように現状としては、寄付、寄付者、サポーターは決して多いとは言えない。2017年3月の未来基金合同報告会でフィールド研修の参加者が語る報告は、年齢を問わず参加者の心に響いた。会終了後、参加者のほとんどがサポーターとして登録をした。今後もこのような機会を作ることでサポーターや寄付者を増やしていく。

● * 2016 年度の動き

* 第1号事業:神戸大学生(アイセック神戸大学委員会)による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016年3月30日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。

日 時:2016年8月10日~18日(9日間)

場 所:フィリピン・セブ島、バンタヤン島

企画者:宮津隆太さん(神戸大学2回生)

参加者:神戸大学生5名

(宮津隆太、河村陽菜、佐久間峻平、西本楓、羽田和真)

同行者:上野智彦(CODEスタッフ)

テーマ:「Sign~学生に国際支援の新たな兆しを~」

内 容:被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。
また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。

* 第2号事業:兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデル村でフィールド研修が行われた。2016年9月12日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日 時:2017年2月22日~3月5日(12日間)

場 所:ネパール・ソルクンブ郡グデル村

企画者:立浪雅美さん(兵庫県立大学4回生)

参加者:兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の3名

(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大季)

同行者:吉椿雅道(CODE事務局長)

テーマ:「Discovery! ~未来への可能性を広げよう~」

内 容:辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。

* CODE 未来基金合同報告会

日時:2017年3月26日(日)

会場:こうべまちづくり会館3階多目的室

参加人数:28名

フィリピン、ネパールでの両フィールドワークプログラムと日中 NGO ボランティア研修交流に参加した若者 8 名が被災地を訪れた経験やプログラムを通じて得た学びなどを報告した。この報告から新たに未来基金に参加したいという若者も出てきた。会で行われたワークショップでは、この報告会から自分が次にどんなアクションを起こせるかということを考え、NGO や未来基金を周知させるためのアクションも提案された。この動きを次年度のサポーターミーティングにつなげていく。

・モデル事業：第 1 回、第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の参加学生への参加費の助成を行った。

* フィールド研修関連の動き

・フィリピンフィールド研修 * 1-(7)と重掲

7月13日 未来基金フィリピンフィールド研修の事前説明会(吉椿、上野)
7月17日 未来基金フィリピンフィールド研修の打合せ(上野)
7月27日 未来基金フィリピンフィールド研修の打合せ(吉椿)
8月7日 未来基金フィリピンフィールド研修の直前研修(吉椿、上野)
8月10日～18日 未来基金フィリピンフィールド研修に同行(上野)* 上述
8月29日 未来基金フィリピンフィールド研修事後ヒアリング(吉椿、上野)
12月15日 第29回食と国際協力「フィリピン」で宮津さん(神戸大学)が報告
3月26日 未来基金合同報告会でフィリピン報告

・ネパールフィールド研修 * 1-(8)と重掲

8月26日 未来基金ネパールフィールド研修打合せ(立浪、吉椿、上野)
10月31日 未来基金ネパールフィールド研修打合せ(立浪、吉椿、上野)
12月14日 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング(立浪、今中、吉椿、上野)
12月22日 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング
(立浪、今中、宮本、吉椿、上野)

2017年

1月26日 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング
(高橋、今中、宮本、頼政、吉椿、上野)
2月15日 未来基金ネパールフィールド研修トレーニング(立浪、今中、上野)
2月22日～3月5日 未来基金ネパールフィールド研修に同行(吉椿)
3月16日 第31回食と国際協力「ネパールの村を訪ねて」(立浪)

* その他の動き

4月14日 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)
6月14日 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)
8月1日 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)
8月22日 未来基金若者ミーティング(村井理事、細川、上野)
9月12日 未来基金2016年度後期選考委員会

	<p>(芹田代表理事、山添理事、榛木理事、松田理事、西海さん、上野)</p> <p>10月21日 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)</p> <p>2017年</p> <p>3月22日 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)</p> <p>3月26日 未来基金合同報告会(室崎、村上、村井、吉椿、上野)</p> <p>(報告者:宮津、河村、羽田、立浪、今中、高橋、成安、北川)</p>
--	--